

☆結核の豆知識☆



結核って？

結核は、結核菌が原因でおこる感染症です。

咳や痰、発熱、体重減少、食欲低下、全身倦怠感などが主な症状です。

肺でおこることがほとんどですが、血液やリンパ液にのって全身の臓器に結核菌が散らばり病巣をつくる「粟粒結核」、脳や肺をつつむ膜に病巣をつくる「結核性髄膜炎、結核性胸膜炎」など体のいろいろな部位におこります。

結核に「感染」するって？

結核菌の混じった咳やくしゃみのしぶきを吸い込むことで感染します。

ただし、結核菌を吸い込んでも鼻やのど等の粘膜に引っかかり体の外に追い出されるので、必ず感染するものではありません。

結核に感染しても、通常は体の免疫力により結核菌の活動を抑え込むので発病しません。感染＝結核菌が肺に住みつくと。結核菌は冬眠状態のため症状はなく、周りの人に感染させる心配はない。

結核を「発病」するって？

結核に感染しても発病するのは 10 人に 1～2 人です。通常は体の免疫力が結核菌の活動を抑え込みますが、加齢や病気（糖尿病や腎不全など）で結核菌の活動が活発になり体の中で増殖を始めると症状などが出てきて発病します。

結核を発病しても、体の外に結核菌が出る状態（排菌）でなければ、周りの人に感染させることはありません。

発病＝肺に住みついた結核菌が体の中で増殖し、症状がみられるようになる。治療しないまましていると重症化したり、周りの人に感染させてしまう可能性が出てくる。

結核の検査って？

結核の検査には「感染を調べる」検査と「発病を調べる」検査があります。

感染を調べる：IGRA 検査と呼ばれる血液検査を行います。

乳幼児の場合、ツベルクリン反応検査でも調べることができます。

発病を調べる：肺で病巣ができていないか胸部レントゲン検査を行います。

痰に結核菌が含まれていないかの検査を行います。

結核の治療って？

現在は結核によく効く薬ができ、3～4 種類の薬を 6～9 ヶ月間服薬することが標準的な治療となっています。

体の外に結核菌が出る状態（排菌）の場合は、結核病床への入院が必要になりますが、排菌がなくなれば通院の治療となります。

服薬を勝手に中断したり、不規則な服薬をすると、薬の効かない結核菌（耐性菌）が増えて、重症化してしまうことがあるので、指示通りの服薬が大切です。



結核の予防って？

体の外に結核菌が出る状態（排菌）の人をなくすために、早期発見・確実な治療で感染の拡がりを防ぐことが大切です。

- ①職場健診や住民健診などで年1回は胸部レントゲン検査を受けましょう
- ②免疫力が低下しないよう、食事・睡眠・運動を十分とるなど規則正しい生活を心がけましょう。禁煙することも大切です。
- ③咳や痰など、結核を疑う症状が2週間以上続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう
- ④治療を開始した場合、医師の指示のもと、毎日確実に服薬をしましょう

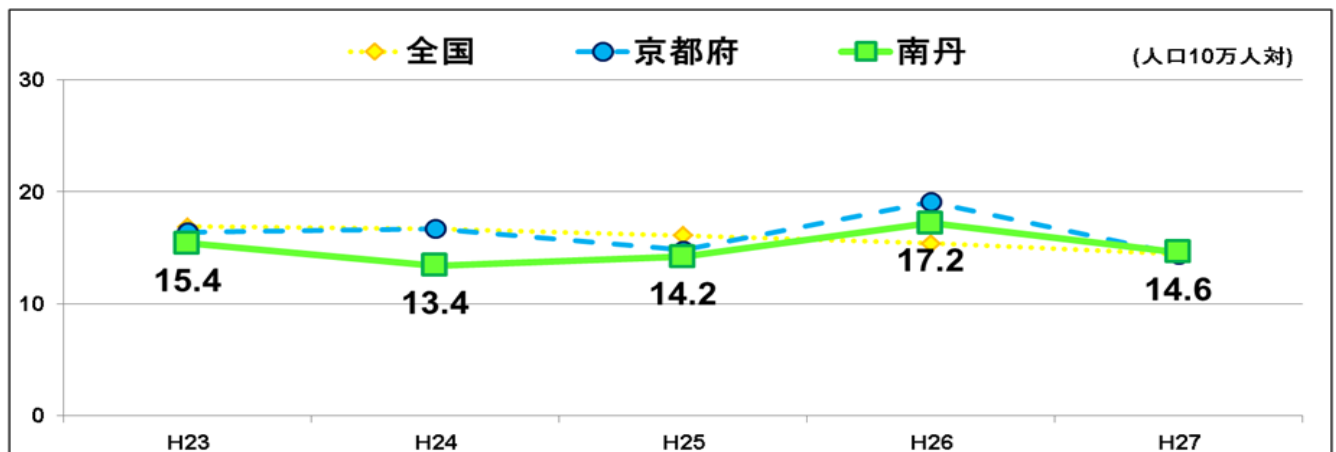


南丹保健所管内（亀岡市・南丹市・京丹波町）の状況

年間20～30人が新たに結核と診断されています。診断された方のうち8割超が65歳以上の高齢者です。

結核がまん延していた時代（1950年頃まで）に結核菌を吸い込んだ方が、高齢になり免疫力が低下したことで発病したと考えられます。

<罹患率の推移>



	H23	H24	H25	H26	H27
全国	16.9	16.7	16.1	15.4	14.4
京都府	16.4	16.7	14.8	19.1	14.4
南丹	15.4	13.4	14.2	17.2	14.6
管内患者数	22	18	19	23	20
管内LTBI数	10	27	13	9	7

※LTBI＝潜在性結核感染症

<南丹保健所では結核に関する相談や出前講座の依頼を常時受け付けています。ご希望の方は担当までご連絡ください>

南丹保健所 保健室 感染症・難病担当

電話：0771-62-2979